

目次

▶ 看護部長あいさつ	表紙
▶ 特集 PACSシステムの更新	2ページ
▶ 診療科紹介 ～腎臓内科～	3ページ
▶ 地域医療連携通信「コンチェルト」のページ	4ページ

看護部長ごあいさつ

福井県立病院看護部長 **木村 八重子**

平成27年5月19日付けで福井県立病院看護部長を拝命しました木村です。県で唯一の急性期総合病院としての使命を胸に抱きながら、地域の皆様に信頼される、心あたたまる看護を目指しています。

看護部では「思いやる心」を看護の原点とし、正規・非正規あわせた総勢796名の看護職員が、質の高い、安心・満足していただける看護を提供できるよう、人材育成に取り組んでいます。

看護の仕事はとてもハードです。また、常に学び続けなければなりません。しかし多くの感動があります。自己成長とともに「誇り」と「喜び」を感じさせてくれる魅力ある職業です。

県立病院で働くすべての看護職員が、看護の魅力を実感しながら、患者さんやご家族の方のために、「思いやる心」を大切に、その人がその人らしい生活を送っていただけるような支援が提供できるよう、日々研鑽しなければならぬと考えます。

看護部は、平成28年4月、7対1看護体制を取得する予定です。

伝統ある福井県立病院看護部長としての責務を真摯に受けとめ、看護の質のさらなる向上を目指し努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



福井県立病院理念・基本方針

理念

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

基本方針

1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者様本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実を図ります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。

「コンパス」には、

「円を描く道具」「方角を示す磁石」の2つの意味があります。

この広報誌が皆様と当院の輪（和）を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、今後の皆様の健康の道しるべとなれるようお願いを込めて名づけられました。

今号からは地域連携通信「コンチェルト」と統合した内容でお届けしていきます。

平成27年
リニューアルしました

当院ホームページでも様々な情報をご紹介します

<http://fph.pref.fukui.lg.jp>

病院の紹介

来院のご案内

診療科のご案内

地域医療連携

医療技術部門
のご案内

交通アクセス・
駐車場のご案内



福井県立病院

サイト内検索
 Google検索

文字サイズ

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

PACS システムの更新

中央医療センター長 吉川 淳

当院は2004年5月の新病院開院時に電子カルテを導入しました。全面的に電子カルテを使用し、レントゲン画像のフィルムでの運用をやめ全てをデジタル化した病院としては当時国内最大規模の病院でした。病院のシステムに聞きなれない略語が多くありますが、その代表がHIS、RISとPACSです。HIS(Hospital Information System)は病院情報システムとよばれ、電子カルテが代表ですが、自動受付、入退院管理、医事会計、薬局管理システムなども含まれる広範囲なシステムで病院の中核といえます。PACS(Picture Archiving and Communication Systems)は画像保存通信システムといわれ、一般撮影、CT、MRといった画像診断装置からのデータをデータベースに保存し、電子カルテなど様々な端末に画像を送信するシステムになります。RIS(Radiology Information System)は放射線科情報システムとよばれることが多く、主に放射線機器による検査や治療の予約から結果までの



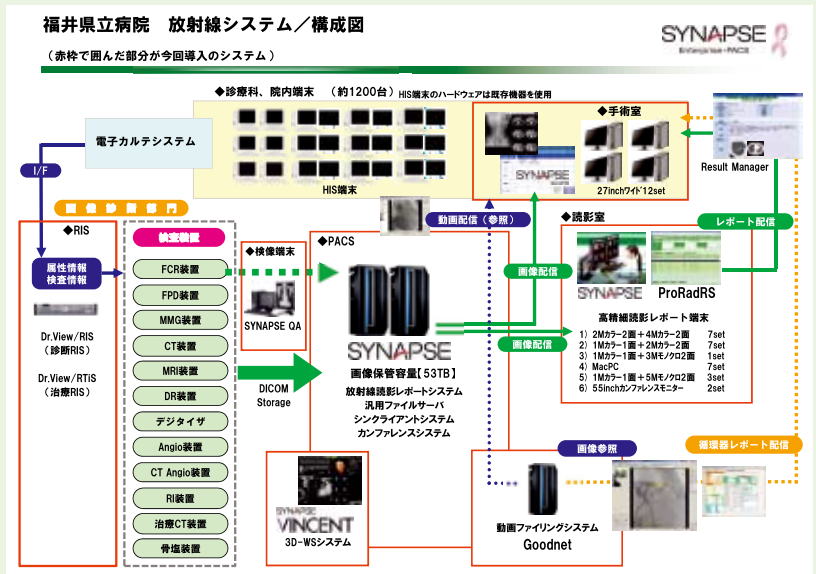
読影室におけるカンファレンス風景

管理を行うシステムです。病院の画像診断検査は、HISから予約がおこなわれ、RISが受信、検査を行い、PACSに画像などのデータを送り、そのデータをHISから見るといった流れになります。今回はこの中のPACSとRISの2つのシステムを更新しました。さらに年末にはいよいよ大規模なHISの更新があり、準備が進められています。

2014年度の当院の画像診断レポートは一般撮影23,787件、CT 24,212件、MR 10,601件、他院読影 1,321件で平日平均250件以上のレポートの作成がおこなわれて

います。検査終了後速やかにレポートを作成するためには1件あたり1,000枚にも達することがある画像を高速に配信、表示する必要があります。また、こうした画像とレポートを病院のあらゆる場所から安定して高速に検索、表示させることが必要です。さらに24時間決して止まることのないことも非常に重要です。そのために定期的にソフト面、ハード面でシステムを更新していかなければなりません。病院にはこうした定期的更新が必要なシステムが数多くあります。

昨年の12月から工事準備を行い、本年2月末にシステムを入れ替えました。この時には三日間にわたり1日1時間システムを停止しましたが、今後6~7年後のシステム更新までもう停止することはありません。更新後3ヶ月が経過し、職員も操作になれ、システムも安定しました。これから更新された新しいPACS、RISシステムの機能を生かし、日常診療に寄与していきたいと考えています。



特集

腎臓内科の紹介

当科は蛋白尿、血尿、浮腫、腎機能低下を契機とする腎疾患、急性腎不全や慢性腎不全、血液浄化療法、リウマチ膠原病と守備範囲は広く、現在4名の医師で担当しております。



腎臓内科主任医長 荒木 英雄

末期腎不全、透析患者は増え続けていますが、腎臓病の早期には蛋白尿が軽度陽性などで、自覚症状を認めないことがほとんどです。しかし、徐々に腎機能障害が進行し、腎不全となる方が少なくありません。その見分け方は簡単にいうと、蛋白尿が多い場合(検尿で2+以上が続く場合)と、血尿と蛋白尿の双方が継続して陽性の場合です。代表的な慢性糸球体腎炎であるIgA腎症は、以前は慢性的に進行し、腎不全に至る例も多かったのですが、扁桃摘出+ステロイドパルス療法を早期に行うことで、半数はほぼ治癒し、腎不全に至ることは稀になりました。それ以外の腎臓病でも、腎生検により診断を確実にしていくことで、著明に改善することが多くなりました。一般に腎臓病は、早期であればあるほど治療効果が高く、良好な予後が期待できます。症状がなくても蛋白尿が継続して2+以上のときは、受診を考慮して下さい。

慢性腎臓病の方は膨大な数にのぼり、日本腎臓学会では約1,300万人と推定しています。そのため、かかりつけ医と連携して診療するCKD(慢性腎臓病)連携パスを使用しています。かかりつけ医に主に通院して頂き、当科医師が例えば3ヶ月に1回診察するなど、共同して診療する体制で、現在、50名以上になります。また、最も多い糖尿病性腎症の方に対して、医師、看護師及び管理栄養士が共同して指導を行う糖尿病透析予防指導を内分泌代謝科と共に行っております。平成26年度には、44名の方に対して延べ118回の指導が行われ、このうちCKD連携パスを5名使用しました。糖尿病透析予防指導は、早期の腎症の方が指導の効果が高いことが明らかになってきています。血糖コントロールが不良の方(具体的にはHbA1cが7.0%以上)や生活習慣に問題のある場合などが良い適応です。

福井では基幹病院でのリウマチ膠原病の専門医が少ないのですが、当科では大鐘医師を中心にリウマチ膠原病も積極的に診療しております。この分野は進歩がめざましく、早期に症状を改善し、良好な長期予後が期待できるようになってきました。対象となる方は、受診、ご紹介頂ければ幸いです。



左から 堀口医長、大鐘医長、荒木主任医長、上田医長

診療科紹介

お知らせ



臨時サロン「きねの」のご案内

～内容「笑いヨガ」～

日時:7月23日(木) 14:00~15:30

場所:県立病院 3階 多目的室1

対象:がん治療を受けている方、ご家族

参加費は無料です

申込不要 直接お越しください

タオル・飲み物をお持ちください

※毎月第2木曜日定例サロンを開催しています。フリーターキングではいろいろな思いを出し合っています。

お問い合わせ先 **がん相談支援センター** TEL 0776(54)5151(代表)

地域医療連携医紹介

「整形外科始めました」 たわらまちクリニック 石黒 基 先生

平成27年4月より、田原町駅北隣に「たわらまちクリニック」を開院いたしました。前身は「小林病院」、「小林クリニック」で、私が勤務して整形外科を始めるに当たり名称変更し、既存の建物の一部を改装してリハビリ室を新設しました。理学療法士・作業療法士が1名ずつ勤務しており、充実したリハビリテーションが可能です。最新式のウォーターベッドマッサージなどのリハビリ機器も充実しています。有床診療所なので、入院手術や県立病院からの術後リハビリ目的の転院も可能です。これまでの胃腸科を専門とした診療は父が担当して継続しています。



5年間県立病院整形外科で勤務させていただき、手外科・外傷を専門として数多くの手術を経験することができました。これも県立病院の先生方、スタッフ、そしてご紹介いただいた連携医の先生方のおかげです。これまでの経験をもとに、可能な手術は当院で行い、専門性の高い治療に関しては県立病院とも連携を密にして、地域に根差した医療を進めていきたいと思っています。これからご指導の程よろしくお願いたします。そして地域の皆様も、整形外科のことならお気軽に「たわらまちクリニック」へご相談ください。

橋爪副院長が地域医療連携推進室長に就任

平成25年から地域医療連携推進室に兼任となっていました橋爪副院長が、平成27年5月19日付で、地域医療連携推進室長に就任いたしました。

地域医療の連携体制の一層の整備・強化により、連携医の先生方とよりスムーズに連携が図れるよう努めてまいります。

なお、4月の異動で松田雅恵看護師長が、5月の異動で辻廣子次長が地域医療連携推進室に配属となりました。より質の高い地域医療サービスを目指して連携業務に取り組んでいきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



左から 辻次長、橋爪副院長、松田師長

地域医療連携推進室からのお知らせ

○開放型病床カンファレンス開催スケジュール○

平成27年7月23日(木) 症例検討/腎臓内科、ミニレクチャー/精神科
 平成27年8月27日(木) 症例検討/内分泌代謝科、ミニレクチャー/心臓血管外科
 平成27年9月24日(木) 症例検討/外科、ミニレクチャー/リハビリテーション科
 いずれも19:30~20:30 場所/県立病院3階講堂



福井県立病院 地域医療連携推進室

TEL/(0776)57-2900
 FAX/(0776)57-2901※
 受付時間/8:30~18:00
 月~金(祝日を除く)

※上記のFAXについては、時間外・土・日曜日および祝日は救命救急センターへ切り替わります。

緊急の場合は救命救急センターへお願いたします。

救命救急センター

TEL/(0776)57-2990
 FAX/(0776)57-2991



健康長寿の福井



新聞やテレビで、県の情報をキャッチ!

新聞 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)
 テレビ番組 「おはようふくいセブン」(FBC/日曜)
 // 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)
 // 「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)
 広報誌 「県政広報ふくい」(年6回発行)
 ※ラジオやインターネットでも提供中。
 問い合わせ:県広報課 TEL/0776-20-0220